

防湿・通気工事

ここでの監理者の心構え

外壁内部の配線や配管、断熱工事が終わると、防湿・気密工事が行われる。防湿工事を行うと自然に気密工事も行うことになる。この工事に関しては、日本では寒冷地を除くとかなり軽視されているのが現状である。断熱性能や気密性能の向上とともに、防湿や通気工事は、それに比例して重要な工事となっていく。断熱性能が増せば増すほど、壁体内結露が生じやすくなる。実際の工事が正しく行われているかどうか、チェックが必要となる。

工事名	工期	年 月 日 ()
	監理責任者	

項目	ポイント	✓	チェック項目
防湿・気密	防湿フィルムの仕様	<input type="checkbox"/>	指定の厚さの防湿フィルムを使用しているか
	施工箇所の確認 参考写真①～④	<input type="checkbox"/>	上下方向では、連続した1枚張りとなっているか (防湿フィルムの付いた繊維系の断熱材は、特に注意が必要)
		<input type="checkbox"/>	[壁面] 外気に接する部分のすべてに施工されているか
	施工状態の確認 参考写真⑤～⑬	<input type="checkbox"/>	[屋根面] 換気のない勾配天井面に施工されているか
		<input type="checkbox"/>	胴差、または桁の下端まで、伸ばして施工されているか
		<input type="checkbox"/>	床面への垂れ下げは、床材で押さえつけられる十分な長さがあるか
防湿フィルム貫通部の確認 参考写真⑭～⑳	<input type="checkbox"/>	壁面のジョイントは壁下地と柱・間柱で押さえつけることができるか	
	<input type="checkbox"/>	細かい破れ、隙間なども防湿テープで補修されているか	
	<input type="checkbox"/>	気密ボックスは、設計図書に指示があれば、使用されているか	
通気	設計図書確認	<input type="checkbox"/>	スリーブやスイッチボックスの切欠きは 枠内に納まっているか
	外壁通気確認 参考写真㉒～㉔	<input type="checkbox"/>	配線・配管における貫通部分について破れ補修は十分か
		<input type="checkbox"/>	防湿フィルムの破れは補修されているか
	外壁と軒天の取り合い 参考写真㉖～㉘	<input type="checkbox"/>	気密ボックスは、設計図書に指示があれば、使用されているか
		<input type="checkbox"/>	材質、厚さと幅(ジョイント部分と隅部は分けて)は、 設計図書通りか
<input type="checkbox"/>		土台水切部分から、外壁に通気が行われるようになっているか	
その他の箇所を確認 参考写真㉚	<input type="checkbox"/>	サッシの釘打ちフィンに、通気胴縁を重ねないようにする	
	<input type="checkbox"/>	サッシ廻りに、通気が行われるように通気胴縁が 施工されているか(2cm程度の通気用の隙が望ましい)	
		<input type="checkbox"/>	ポーチ軒天と外壁の取合いで、通気が確保されているか
		<input type="checkbox"/>	屋根軒天と外壁の取合いで、通気が確保されているか
		<input type="checkbox"/>	バルコニー手摺壁の通気が確保されているか
		<input type="checkbox"/>	外壁から小屋裏へと通気がとれているか
		<input type="checkbox"/>	通気経路がふさがれている箇所はないか

メモ

Blank memo area with horizontal dashed lines for writing.